



2004年の制度改正で導入された仕組み



※厚生年金の保険料率は、2004年から毎年引き上げて2017年に固定(上限固定)

- 年金制度の持続可能性を確保するため、左右のバランスを取れるように年金額を調整するのがマクロ経済スライド。ただし、物価と賃金ともにプラスのときのみ調整します。
- 2019年度のマクロ経済スライド▲0.2%は、下表のA 被保険者変動率0.1%とB 平均余命の伸び率▲0.3%から算出。

【マクロ経済スライドによるスライド調整率】

年度	2015	2016	2017	2018	2019
被保険者変動率 (平均対象年度)	▲0.6 (2011~2013)	▲0.4 (2012~2014)	▲0.2 (2013~2015)	0.0 (2014~2016)	0.1 (2015~2017)
平均余命の伸び率	▲0.3(固定)				
マクロ経済スライドによる調整	▲0.9	▲0.7	▲0.5	▲0.3	▲0.2
調整の実施	実施	実施せず	実施せず	キャリアオーバー	実施

※キャリアオーバー制度は、2018年4月より開始

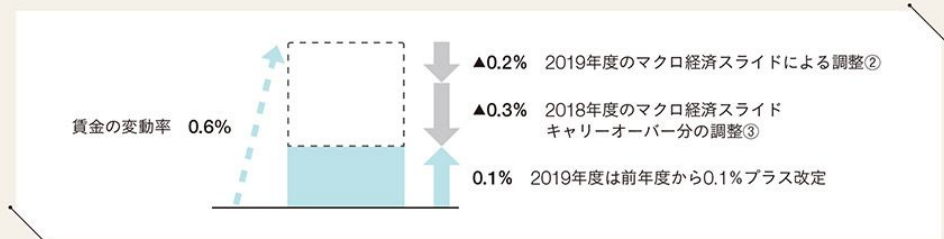
- 被保険者の変動率は、当初の見込みより低くなっています。その要因は、60歳以上の高齢者雇用が見込みより進んだこと等により、厚生年金の被保険者数が増加したことによります。
- 2016年10月よりスタートした短時間労働者の適用拡大による厚生年金の被保険者は、当初の見込みの約25万人を上回って、2018年7月現在で40万人を超えています。

※適用拡大の対象となる短時間労働者・・・501人以上の企業等で雇用される所定労働時間が20時間以上等の短時間労働者

2019年度の年金額の改定

物価変動率 1.0% 賃金の変動率 0.6% } 物価>賃金>0の場合は賃金に合わせて改定①

さらに2019年度のマクロ経済スライド調整率②と、2018年度のマクロ経済スライドのキャリアオーバー③によって調整。



年金の  
キャリアオーバー

年金額は物価や賃金による改定に加え、少子高齢化に対応するためマクロ経済スライドによる調整が行われています。そして、2018年度から、マクロ経済スライドのキャリアオーバー制度が始まっています。



**芳子** 年金額は、どんな仕組みで改定されるのですか？  
**横山** 物価と賃金の変動によって改定されます。さらに少子高齢化に対応するために「マクロ経済スライド」によって調整されます。  
**芳子** 物価と賃金の変動は何となくイメージできますが、マクロ経済スライドって何ですか？  
**横山** 年金は、現役世代から年金をもらう人へ仕送りする仕組みになっているのを知っていますか？  
**芳子** 聞いたことがあります。年金をもらう人が増えて余命が延びれば、現役世代が負担する保険料が増えますよね。  
**横山** それだと、保険料負担がどこまでも上がってしまうので、保険料率の上限を固定して、限られた財源の中で年金額を調整するのがマクロ経済スライドです。2004年の改正で導入されました。  
**芳子** 具体的には、どんな計算方法なんですか？  
**横山** 平均余命の伸び率10・3% (固定) × 公的年金の被保険者の減少率(過去3年度平均)で算出されます。

**芳子** そうすると、年金額をマイナス調整していくのですか？  
**横山** いいえ、物価と賃金どちらもプラスのときだけ調整するので、15年の一度だけです。  
**芳子** それだと、ほとんど効果がないですね。  
**横山** そうです。それで法律が改正され、18年度は、物価変動率がプラス、賃金変動率がマイナスでマクロ経済スライドによる調整は行われませんでした。その分は繰り越され(キャリアオーバー制度)、19年度に反映されました。



横山玲子社会保険労務士事務所代表。  
 ホームページ <https://www.r-yokoyama-office.jp/>  
 Twitterアカウント @mayokor